

新しい認知症観とは？



2024年1月1日に施行された認知症基本法に基づき、2024年12月に【認知症施策推進計画】が閣議決定されました。

この計画では、認知症当事者の視点に立った基本的施策が制定されています。その中でも【**新しい認知症観**】に立ち、国民一人ひとりが、認知症の人が自らの意思によって、日常生活・社会生活を営むことができる共生社会を作り上げていく、とされています。

【新しい認知症観】は、『認知症になったら何も分からなくなる・できなくなる』という否定的なイメージではなく、『**認知症になっても、一人ひとりが個人としてできること、やりたいことがあり、住み慣れた地域で仲間等とつながりながら、希望を持って暮らし続けることができる**』といった考え方です。

仙台市では、新しい認知症観に基づいて、様々な取り組みを行っております。詳細は地域包括支援センターへお問い合わせくださいませ。

古い認知症観

(他人ごと、問題重視、疎外、絶望)

- ①他人ごと、目をそらす、先送り
- ②認知症だと何もわからない、できなくなる
- ③本人は話せない/声を聞かない
- ④おかしな言動で周りが困る
社会の負担
- ⑤危険重視
- ⑥周囲が決める
- ⑦本人は支援される一方

- ⑧認知症は恥ずかしい、隠す
- ⑨地域で暮らすのは無理
- ⑩暗い、萎縮、あきらめ、絶望的

新しい認知症観

(わがこと、可能性重視、ともに、希望)

- ①わがこと、向き合う、備える
- ②わかること、できることは豊富にある
- ③本人は声(サイン)を出せる/声を聴く
- ④本人が認知症バリアの中で一番困っている
バリアをなくし、暮らしやすい地域を創る先駆け
- ⑤あたりまえのこと(人権)重視
- ⑥本人が決める(決められるような支援)
- ⑦本人は支え手でもある。「ともに」ある、支え合う
- ⑧認知症でも自分は自分、オープンに
- ⑨地域の一員として暮らし、活躍
- ⑩楽しい、のびのび、あきらめず、希望を



出典：仙台市ホームページ

出典：令和5年1月 認知症地域支援体制整備全国合同セミナー資料
(認知症介護研究・研修東京センターホームページ)をもとに作成

認知症の方にやさしい地域づくりも地域包括支援センターへご相談を